

# 平成 29 年度 第 1 回みんなで支える森林づくり松本地域会議

日 時 平成 29 年 8 月 31 日 (木) 13 時 30 分から 15 時 30 分

場 所 松本合同庁舎 203 号会議室

出席者

みんなで支える森林づくり松本地域会議委員

牛島 俊平	信州フォレストコンダクター(長野県森林組合連合会中 信木材センター)
太田 美絵	塩尻商工会議所相談指導課
佐藤 喜男	森林環境教育研究室室長
田村 恵子	自然エネルギー信州ネット理事
平林 千代	安曇野市消費者の会会長
増田 富重	松本広域森林組合専務理事
矢島 頼義	松本市農林部耕地林務課課長

松本地域振興局

局 長	吉川 篤明
林務課長	春日 嘉広
課長補佐林務係長	森 一 雄
課長補佐林産係長	山 崎 隆
課長補佐普及係長	芳沢 雅行

委員からの意見

- 森林税を止めてもよいというような論調もあるが、多目的に使わなければいけないことでもあるので、山を見て判断してもらいたい。
- 森林づくり推進支援金については、廃止・縮小ではなく増やしてもらいたい。国庫の事業では出来ない部分への取組みのため強くお願いしたい。
- 組合や事業体の場合、小規模な間伐では取り組むことが難しいため、集約化を行うなどして、国庫補助事業が使えるような対応を進めている。そのため、森林税の事業については、制約を緩和し、自伐林家や NPO などの小規模なグループが実施できるような制度とする方がよい。
- 書類なども今は国庫補助事業と同等なものを求められる。これらについても緩和するべき。
- 一般の感覚として、4. 9 億円残っている中でまだ徴収するのかという気持

ちも理解できる。これは、積み立てられた基金が使われずに無駄になるのではないかということに心配しているのではないか。若年層に対して理解してもらうための取組みがもっと必要。

- 一人 500 円は決して支払えない額ではないので、単年度で全額を使うのではなく、長期に渡って使う仕組みでもよいのではないか。
- 木育などにも使える部分を拡大してもらいたい。
- 松くい虫対策を実施した場合の効果を示していくべき。
- 木を使う素地が浸透していない中で、木材だけを市場に出しても価格が下がってしまう。同時に木を使う文化を育てていかないとアンバランスなものになる。長期的な取組になるが、木を使う文化を生活の中に浸透させることが必要。
- 都会の人が田舎に来た時に山に入れるような、観光と一体となった取組みも必要。